

下関文書館の紹介

嘉室 千加子

下関文書館

1. 当館の概要

下関文書館の所在地長府は「日本書紀」に登場し、律令制の施行により長門の国の国府が置かれました。また、和同開珎が鑄造された鑄銭司の遺構が確認されています。江戸時代に入ると毛利氏が防長二国を領有しますが、ここには支藩の毛利藩が置かれました。幕末の維新时期に高杉晋作が挙兵したのも当地でした。この歴史ある街の、神功皇后伝説に色濃く彩られた忌宮神社境内に下関市立長府図書館があります。明治42年私立豊浦郡教育会付設豊浦図書館として開館し、大正13年に当時の長府町に移管され長府町立長府図書館と改称、さらに昭和12年下関市と合併して市立図書館となりました。その後昭和42年に明治100年記念事業の一環として改築された時に、それまで図書館の書庫として使われていたレンガ造りの建物を歴史資料専用書庫として下関文書館が併設・開館されましたが、その折設置条例等は制定されないままでした。

2. 所蔵資料

長府毛利家文書、乃木文庫などの貴重な資料を含め約26,000点を所蔵しています。

2.1 藩政期

「長府毛利家文書」長府藩藩主毛利家から寄贈された文書を主体とし、社寺、伝記、藩政文書、毛利私家、明治維新、豊浦県文書、

嘉室 千加子 (かむろ ちかこ)

下関市立長府図書館長

古地図・軸物、諸家文書、文芸などに分類されています。若き日の狩野芳崖も作画に参加した「馬関彦島沖測量図」もこの中の一点です。



馬関彦島沖測量図

「細川家文書」長府藩の筆頭家老を代々務めた細川家の系図、毛利元就の書状などがあります。幕末期に細川家に嫁いだ藩主の娘の肖像画で狩野芳崖が描いた「鱗姫図」も含まれます。(現在下関市立美術館へ寄託)



鱗姫図

「笹尾家文書」山陽道街道筋の宿場町吉田で給領地差配にかかわり庄屋と代官をかねた立場と推察される笹尾家の地下文書。

「阪本家文書」初代藩主毛利秀元に従って

芸州から下り、さらに清末藩初代元知に隨身した阪本半左衛門を祖としており、清末毛利関係の文書や歌書・詠草などを含みます。

「黒河家文書」清末藩士御馬廻格70石で、特に武芸・礼法などの免許状・伝書を多く含んでいます。

「下田家文書」下田家は長府藩伊倉村ほか数村の庄屋を務めました。

「多賀家文書」多賀直常は毛利家家臣細川家に仕える家に生まれ藩主に取り立てられました。武芸・学問に関したものが主です。

「荻山家文書」寺社奉行・御収納方・郡御郡代などを務めた荻山家の資料で百姓や社寺のあり方とその関係がよく分かります。また12代荒助は学問を好み長府藩校敬業館の講師に任じられ資料の中には敬業館の印章があるものも少なくありません。

「野々村家文書」幕末に長府藩報国隊都督だった野々村勘九郎を中心とする資料です。

「長岡家文書」長府藩吉田宰判木屋川口の諸事にかかわった長岡家の文書。

「佐甲家文書」赤間関の大年寄・本陣を務めた佐甲家の文書で宿請証文・寺請証文・往来手形などがあります。

「亀田家文書」吉母村の庄屋を代々務めた亀田家の文書。庄屋一般文書・証書類・海難関係の文書があります。

「雲海(くもみ)家文書」下関市伊崎町にあった盲僧琵琶法師の家雲海家の所蔵でした。私家文書のほか長府藩触書や沙汰書があります。

「熊谷家文書」長府藩御馬廻通の熊谷家は歴代中に御側御用人・御奥年寄・赤間関在番の重職を務めた者もあり、書状がほとんどです。

「古医書」江戸時代に刊行された古医書約300点。

2.2 明治以降

「乃木文庫」明治天皇に殉じた乃木希典大将の遺言により寄贈された蔵書です。

「下関米取引所日記」明治16年から昭和元

年までの米取引所の日記です。

「旦山文庫」明治23年山口県豊浦郡粟野村生まれの書家長見曙介の蔵書を遺族から寄贈されたものです。

「堀先生文庫」山口県菊川町出身の教育家・郷土史家堀哲三郎氏の資料・草稿類です。

「椿惣一先生資料」山口市出身の教育家で町立だったころの長府図書館長や長府博物館長も勤めた事のある椿惣一氏の日記・記録・手紙などです。

「村田峰次郎関係書簡」幕末期に長州藩の財政改革を担った村田清風の曾孫で、毛利家の家史編集の職に就き防長地域史の調査・研究に当たりました。

3. 活動

これまでに郷土資料目録13冊、史料叢書32冊を刊行しています。

また、毎年1回資料の展示を行っています。平成18年「世相さまざま - 下関・秋田商会寄贈の資料に見る - 」

平成19年「あれから100年 - 乃木將軍長府へ凱旋」

平成20年「古文書に見る日朝交流 - 漂流民送還をめぐる」

平成21年「1枚の写真が語る」

平成22年「所蔵古地図展」

4. 今後の課題

当館の設立は地方文書館としては国内でも早い時期でありその当時は活発な活動をしていました。しかし現状はきわめて立ち遅れていると言わざるをえません。もっと開かれた存在として積極的に活用していただけるよう整備をすすめる必要があります。資料の収集・整理・保存に加え、デジタル化への対応も急ぐ必要があります。

近隣の博物館とは所蔵資料の重複部分もあり、利用者の混乱を招かないような住み分けも模索中です。

データシート

- ・機関名：下関文書館
- ・所在地：〒752 0967 下関市長府宮の内町1 30 長府図書館内
- ・電話 / F A X : 083 245 0328 / 083 245 0424
- ・Eメール：lib-choh@library.shimonoseki.yamaguchi.jp
- ・ホームページ：
- ・交通：JR 下関駅・新下関駅・長府駅からサンデnbas「城下町長府」下車 徒歩約5分
- ・開館年月日：昭和42年9月
- ・設置根拠：
- ・組織：館長（兼務）1 主任（兼務）1
- ・建物：煉瓦造地上2階建て 延べ床面積105.13㎡（竣工大正2年）
- ・公開資料：古文書等約26,000点
- ・開館日数：（平成21年度）：269日
- ・開館時間：9：30～17：00
- ・休館日：毎週月曜日・祝祭日・毎月最終金曜日・年末年始（12月28日～1月3日）
蔵書点検期間
- ・主要業務：文書の収集・整理・保存
所蔵資料の閲覧提供
資料目録・史料叢書の作成・刊行
解読講座の開催
所蔵資料の展示



赤レンガ造りの文書館建物